

体裁—A4判・上製・函入・総約3、600頁

別冊—解説(粟屋憲太郎・中村陵)・総目次

*別冊のみ分売可||1、2000円+税

ISBN 978-4-8350-6867-1

推薦—**瀬瀬厚・安達宏昭**

原本—**国立国会図書館(米国立公文書館原資料)**・**東京大学社会科学研究所図書室**

提供—

第1回配本 第1冊	(16年2月)	本体17,000円+税
第2回配本 第2冊	(16年5月)	本体17,000円+税
第3回配本 第3冊	(16年8月)	本体17,000円+税
第4回配本 第4冊	(16年11月)	本体17,000円+税
第5回配本 第5冊	(17年2月)	本体17,000円+税
第6回配本 第6冊	(17年5月)	本体17,000円+税
第7回配本 第7冊	(17年8月)	本体17,000円+税
第8回配本 第8冊	(17年11月)	本体17,000円+税
第9回配本 第9冊	(18年2月)	本体17,000円+税
揃価—全9冊+別冊1 本体	153,000円+税	

十五年戦争極秘資料集 補巻44
戦時下政治行政活動史料
 一九四一—一九四五 全3冊

・体 裁—B5判・上製・函入・
 総1、392頁

・編・解説—古川隆久
 ・推 薦—加藤陽子
 ・揃 価—本体57,000円+税

翼賛政治会が政務調査を中心とする政治活動のために収集または刊行したと推定される諸史料を復刻。日本政府と議会はいかに戦時に対応したのか。当時の政治家と議会、政府の関係を知る上で大変貴重な史料であると同時に、外交・経済・社会の実情をもうかがえる価値ある史料である。

特に、終戦直前(昭和二〇年七月)に実施された行政査察の詳細な報告書は、戦時統制の限界と破綻を示す貴重な内容となっている。

調査報告第三編
昭和十八年一月

民防空具体策ニ関スル調査報告書

大政翼賛會調査會第三委員會

不二出版

〒113-0033
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
フアクシ03-3812-4464
振替001600294084

十五年戦争極秘資料集

極秘

研究生研究演練實施要領

一六二〇二九
総力戦研究所

第一方針

總力戦の見地ヨリ東亞共榮圈ノ建設理想及其第一期指導要領ヲ總合的ニ研究會傳セシメ且之カ具現ノタメ各自職域ニ於ケル具體的實踐ノ準備ヲ信念的ニ把握セシム

第二要領

一、研究演練ハ左ノ如ク前後段ニ分ツ
 前段 十月下旬ヨリ一月ニ至ル
 後段 主トシテ二月

二、前段ノ研究演練ハ東亞共榮圈建設及其第一期指導要領ニ關スル總力戦的基礎研究ヲ逐ケシムルモノトシ綜合研究ヲ主トシ可及的範圍ニ於テ一部分科研究ヲモ附帶シテ行フ
 研究課題ヲ別紙ノ如ク豫定ス
 之カ爲研究生ハ適性ニ應シ全活動ヲナス如ク其都度之ヲ分課編成スル

不二出版

補巻47

総力戦研究所関係資料集

全9冊+別冊1

●編・解説||粟屋憲太郎・中村陵

●推 薦||瀬瀬厚・安達宏昭

●価 格||各配本17,000円+税

(別冊のみの価格||1,200円+税)

極東国際軍事裁判(東京裁判)において檢察側が

その役割に注目し、一般的戦争準備段階の立証審議

で取り上げたことにより関心が寄せられてきた「総

力戦研究所」(一九四〇年一〇月—一九四五年三月)。

しかし、これまで資料的制約により、その研究対象

が一部にならざるを得なかった。

今回、編者の努力により、国際検察局文書(I P

S文書)を中心とした膨大な諸資料から、総力戦研

究所作成資料の丹念な抽出・編集が行われた。

これまでほとんど明らかにされてこなかった開戦

以降の諸資料も多数収録、総力戦研究所の全貌を迫

る第一級資料である。

『総力戦研究所関係資料集』刊行にあたって

栗屋憲太郎・中村 陵

本資料集は、東京裁判の国際検察局 (International Prosecution Section 略称 I P S) 文書 (Entry No.329 "Prosecution Evidential Documents")、および東京大学社会科学研究所図書所蔵『極東国際軍事裁判関係資料』に存在する総力戦研究所関係の諸資料を編集復刻したものである。

総力戦研究所は、一九四〇(昭和一五)年一〇月から一九四五年三月まで、各省から集められた官僚を中心に国家総力戦の研究と教育・訓練を行った、内閣総理大臣管轄下の研究機関である。研究所については、極東国際軍事裁判(東京裁判)において検察側がその役割に注目し、一般的戦争準備段階の立証審議で取り上げたことにより、関心が寄せられるようになった。

その後、裁判記録の公開や研究所関係者らの回想録が刊行され、研究所の詳細が次第に明らかになり始めたことにより、一九七〇年代から九〇年代にかけて研究所をテーマとする研究の進展がみられることになった。しかし、その関心は、アジア・太平洋戦争開戦直前に実施された総力戦机上演習に集中し、加えて、現存する研究所の関係資料も、開戦以前のものが多数を占め、それ以降の資料はほとんど見受けられない現状にある。それゆえ、研究所の全貌を解明するまで昇華されているとは言い難い研究状況にある。

本資料集には、開戦以前のみならず、これまでほとんど明らかにされていなかった開戦以降の諸資料も収録されており、その内容は、机上演習のみならず、研究所の所員・研究生が実施した調査研究や教育・訓練活動、さらには教務日誌など、多岐にわたっている。総力戦研究所の全貌を把握したものは本資料集が初めてとなり、その詳細を探るうえでも有意義な活用が期待できる。

また、当該期、盛んに議論されていた総力戦体制構築の要請に対し、研究所に入所した官僚らは総力戦をいかなる認識で捉え、克服してゆこうと試み、いかなる総力戦体制を指向したか、総力戦体制の実態を把握するうえで、本資料集は大いに役立つと思われる、従来とは異なる視点からの「総力戦体制像」を検討するための一助としての役割が本資料集には期待できよう。

内容見本

機密

東亞圈重要物資將來需要ノ推定

大東亞圈貿易統計

Proj. No.	_____
S. A. No.	_____
Stack No.	_____
Item No.	_____

Proj. No.	113
S. A. No.	152227
Stack No.	_____
Item No.	54

青島	_____
上海	_____
漢口	_____
南京	_____
天津	_____
北京	_____
香港	_____
廣州	_____
長沙	_____
重慶	_____
成都	_____
昆明	_____
蘭州	_____
西安	_____
鄭州	_____
開封	_____
徐州	_____
濟南	_____
青島	_____
合計	_____

文書種別	総力戦第三七號
一連番號	5
編製年月日	昭和十七年一月十日
編製回数	一五〇部
整理	昭十七年一月十日
所蔵場所	昭十七年一月十日

總力戦研究所調製

総目次

- 第一冊
 - 原種行編「昭和十七年度教務関係書類」(秘)(一九四二年二月一〇日〜二月五日(作成))
 - 原種行編「昭和十七年七月教務日誌」(秘)(一九四二年七月一五日〜一九四三年三月八日(作成))
 - 原種行編「昭和十八年九月 教育制度改正関係書類」(秘)(一九四三年九月二日〜二四日(作成))
 - 昭和十六年度初頭ニ於ケル総力戦の内外情勢判断(極秘)(一九四一年(作成))
 - 皇国総力戦指導機構ニ関スル研究(概要)(極秘)(一九四一年二月三日調製)
 - 昭和十六年度総合研究実施要領(極秘)(一九四一年一〇月二九日〜一九四二年一月二二日(作成))
- 第二冊
 - 昭和十六年度総合研究第四回研究課題答申 戦争ニ伴フ国力整備(機密)(一九四一年二月一五日提出)
 - 経済戦要則(概要)(極秘)(一九四一年二月一九日調製)
 - 東亞重要物資將來需要ノ推定(機密)(一九四二年二月一日調製)
 - 東亞建設 第一期総力戦方略(案)ノ拔萃(一九四二年二月一八日調製)
 - 大東亞共榮圈ニ於ケル食糧資源等ニ関スル調査(機密)(一九四二年三月二八日調製)
 - 海運関係資料(機密)(一九四二年六月二六日調製)
- 第三冊
 - 大東亞圈貿易統計(機密)(一九四二年一月一〇日調製)
 - 東亞圈自給力関係統計表(機密)(一九四二年一月一〇日調製)
 - 第九回及十回研究課題 大東亞共榮圈建設原案及東亞建設第一期総力戦方略ニ関スル予備研究答申(極秘)(一九四二年一月一四日(作成))
 - 総力戦綱要第四編 総力戦ニ於ケル外交戦要則(未定稿)(極秘)(一九四二年一月二四日調製)
 - 大東亞共榮圈建設原案(草稿)(機密)(一九四二年一月二七日調製)
 - 東亞重要物資將來需要ノ推定(機密)(一九四二年二月一日調製)
 - 東亞建設 第一期総力戦方略(案)ノ拔萃(一九四二年二月一八日調製)
 - 大東亞共榮圈ニ於ケル食糧資源等ニ関スル調査(機密)(一九四二年三月二八日調製)
 - 海運関係資料(機密)(一九四二年六月二六日調製)
- 第四冊
 - 昭和十七年度基礎研究資料 第三回第一週及第二週作業(二冊分ノ一)(一部軍資秘)(指定制動員機密)(一九四二年八月八日〜一七日/一九四三年五月一〇日調製)
 - 定総動員機密(一九四二年八月八日〜一七日/一九四三年五月一〇日調製)
 - 英米ノ経済的抗戦力ノ検討ヲ中心トシタル大東亞戦ノ判断並ニ之ニ対スル帝国ノ措置(昭和十七年五月十日外務省通商局第一課研究班作製)(外機密)(軍極秘)(一九四二年八月二五日作製)
 - 昭和十七年度総合研究記事(機密)(一九四三年三月三〇日調製)

- 第五冊
 - 昭和十八年度基礎研究第二課題(其ノ一)作業 帝国(勢力圏ヲ含ム)ノ国力判断(二冊分ノ二) 三、経済(軍極秘)(一部軍資秘)(指定制動員機密)(一九四三年八月五日調製)
 - 昭和十八年度総合研究記事(機密)(一九四四年一月一〇日調製)
- 第六冊
 - 昭和十八年度総合研究記事附録 修業論文集 総力戦ノ見地ヨリ我国ノ現状ヲ論ス(機密)(一九四四年一月一〇日調製)
 - 昭和十九年二月以降ノ研究(一九四四年二月二八日〜九月一四日(作成))
 - 昭和十九年三月末現在 帝国並ニ列国ノ国力ニ関スル総力戦の研究(機密)(一九四四年九月三〇日調製)
- 第七冊
 - 第一回総力戦机上演習関係書類 昭和十六年八月(一九四一年七月二四日〜八月二八日提出)
 - 机上演習統監部編 機密第一号 第一回総力戦机上演習第三期乃至第九期演習情況課題及演習処置 級(一九四一年八月六日〜一五日(作成))
 - 総機演習統監部編 第九期演習終末作業(機密)(一九四一年八月二三日提出)
 - 青国内閣編「第一回総力戦机上演習経過記録」(機密)(一九四一年八月二三日以降作成)
 - 第一回総力戦机上演習経過記録(機密)(一九四一年八月二三日以降) 提出
 - 経済戦審判部編「第一回総力戦机上演習経済戦演習経過概要」(機密)(一九四一年八月二三日以降作成)
 - 研究項目所見(機密)(一九四一年八月二七日提出)
 - 昭和十六年度將來戦様相ノ変化ヲ示唆スル事項(答申)其ノ他(機密)(一九四一年八月九日三、四日提出)
- 第八冊
 - 昭和十七年度机上演習関係書類 思想戦審判部主任(軍極秘)(一九四二年九月一日〜二月二四日/一九四三年一月二九日調製)
 - 昭和十七年度総力戦机上演習研究会関係書類一括(軍極秘)(一九四三年一月二九日調製)
- 第九冊
 - 昭和十八年度第二回総力戦机上演習関係書類(一九四三年八月三〇日〜十一月一三日/一九四三年一〇月二五日調製)

『総力戦研究所関係資料集』発刊に寄せて

瀨 厚 (山口大学教授)

国際検察局文書に存在した総力戦研究所関連の史料が「全九冊・別冊一」として刊行され、部分的にしか掌握されてこなかった本研究の全貌が明らかにされることになった。第一次世界大戦を契機とする戦争形態の総力戦化に、ヨーロッパの参戦諸国は一樣に深い関心を寄せ、将来の総力戦への対応の検討を開始した。一方、日本では対英米戦争が起きる直前まで、国家全体の問題として総力戦は十分には認識されなかった。しかし、日中戦争の長期化と対英米戦争の可能性が浮上するや、総力戦時代の国防は武官と文官との協働によって対応すべきだ、とする認識が漸く広まっていく。一九四〇(昭和一五)年一〇月一日、企画院総裁星野直樹を初代所長とする首相直轄の総力戦研究所が設置された。当時、総力戦研究所は、日米戦争開始直前の一九四一(昭和一六)年七月一二日、第一回総力戦机上演習計画を発表。後日「日本必敗」の結論を提起したことで注目を浴びる。緒戦の勝利、長期戦化、ソ連参戦など以後の戦局をほぼ完全に予測していたのである。このような研究所の研究成果と予測の正確さは、今日においても頗る注目値する。国家戦略の不在性が指摘された当時の政府・戦争指導部にあつて、同研究所がどのように位置づけられていたか、何故その成果が実際の戦争指導に反映されなかったのか、など多くの疑問が残されたままだ。その疑問を解明するために、今回の史料集は大いに役立つものと確信する。

日本における「総力戦体制」の実態を明らかにする史料群

安達宏昭 (東北大学大学院文学研究科教授)

本資料集におさめられた史料群は、総力戦の研究・教育・訓練を担った総力戦研究所の全体像を明らかにするとともに、日本の総力戦体制を考へる上で必須の史料となる。総力戦体制とは、第一次世界大戦で現出した新しい戦争の形態で、国家の総力すなわち経済力、技術力、政治力、人的資源などを、戦争に勝利するため総動員する体制である。この体制を構築するためには、そうした諸力を一元的に運用する政治システムが必要と考えられた。日本でも大戦後に研究が行われ、その実現のための諸方策が模索された。しかし、明治憲法に規定された多元的分立的な国家構造のため、日中戦争開始以後も、実際には、国家の諸機関を統合した一元的な戦争指導体制を構築することができなかった。こうした中で、本資料集の史料からは、総力戦研究所の活動は、あくまでも研究や教育などに限定され、政策に関与するものではなかったことが読み取れる一方で、その設立・運営が官僚機構のセクシヨナリズムを克服しようとする取り組みであった側面も見いだすことができるのである。また、戦時期における研究と演習から、従事していた官僚たちによる「総力戦体制」の自己認識がわかり、新たな視角から実態にせまることができ、興味深い。栗屋憲太郎氏と中村陵氏による解説は、研究所に関連する広範な史料や研究に言及して、優れた手引きになっている。本資料集の公刊が、総力戦に関する研究のさらなる進展に寄与することを期待する。

内容見本

極秘

昭和十八年度総合演習課題

昭和十九年

決戦方策

一八・一九・二二火

前段(総論)

第一 決戦方策ノ目標

第二 決戦方策ノ具體概要

一 武力方策

二 思想方策

三 對内方策

四 對外方策

五 政治方策

六 國內政治力結集方策

七 共榮圈政治力結集方策

秘

教育訓練實施表

總力戦研究所

Table with columns for months (April to March) and rows for various activities (e.g., 演習, 講義, 調査) with numerical data points.

軍機密

第一軍部
再ノ軍事技術ノ見地ニ
基ク將來總力戦ノ基
機相ニ關スル觀察
第二回機上
川上 研究生 提出
文書番號 研 西 外
一連番號 第 25 號
作製年月日 昭和十七年八月十七日
調製部 第七檢部
感 理 用 後直ニ返却
總力戦研究所設置

軍機密

第二回總力戦機上演習講評網誌

第一 (外交關係)
一、帝國政府ハ組閣以來外交施設ノ三目標ハ日蘇獨交誼
重慶全而和平ノ達成ニ急ニシテ他ヲ顧ミルノ暇ナ
大東亞會議ノ大東亞五原則ノ宣言及歐州新秩序會議
ヲ成立セシメテ之ヲ放擲シ演習後半期ニ入り
機相ヲ露呈シ正ニ政略戰ヲ括弧ナラシムヘキ秋
テ戰爭終結及戰後建設ヲ含メテノ世界政策的施設ナ
八月反樞軸側ノ世界再建宣言ニ接耳ニ水ノ露ヲ示シ
三、共榮國方策ニ對シテ帝國政府ガ政治分野ニ
約ノ推進ニ關シ時宜ニ適シタル具體方策ヲ實施シタ
シ經濟分野ニ於テハ何等確信アル對策ヲ見ズ、又、

海

軍機密

第二回機上演習計畫腹案

方式
對抗演習式
編 制

Table with columns for 區分, 指導部, 演習部, 赤國, 青國, 米國代表, 英國代表, 赤國代表, 青國代表, 米國代表, 英國代表, 赤國代表, 青國代表, 米國代表, 英國代表. Includes names like 栗屋憲太郎, 中村 陵.

總力戦研究所からみる日本の「總力戦体制」

栗屋憲太郎
中村 陵

はじめに
本資料集は、東京裁判の國際檢察局 (International Prosecution Section) 以下、IPSと略記。文書のEntry No.329
Prosecution Evidential Documents、および東京大学社会科学研究所蔵「極東國際軍事裁判關係資料」に存在
する總力戦研究所關係の諸資料を、「總力戦研究所關係資料集」として編集・復刻しようとするものである。總力戦
研究所は、一九四〇(昭和十五年)一月に開設され、一九四五年三月末まで國家總力戦の研究・教育・訓練を目的
として內閣總理大臣の管轄下に置かれた研究機關である。研究所については、極東國際軍事裁判(東京裁判)におい
て檢察官の役割に注目し、一般的戰爭準備段階の立証審議で取り上げられたことにより、関心が寄せられるよう
になった。
東京裁判の公判廷で、總力戦研究所がとりあげられたのは、一九四六年一月二日から始まった「昭和七年度
以降の「日本の一般的戰爭準備」の審議だった。一九三七年の國家總力戦法の発令によって、日本は一挙に全体主
義國家に昇格し、ついに侵略擴張政策に転じた。それはまた同時にあらゆる教育機關と宣伝機關を動員するきっかけ

十五年戦争極秘資料集 補巻①(47)

Table of contents for '十五年戦争極秘資料集 補巻①(47)'. Lists 47 items with titles, editors, and ISBN numbers. Items include: 毒力入戦教育關係資料, 毒力入戦關係資料II, 思想彙報II, 戦時下國民栄養の現況調査報告書, 第二次上海事変における第九師團軍醫部陣中日誌, 廣瀨橋事件期支那駐屯毒兵隊 重松關係文書, 韓国併合始末 關係資料, 軍隊警察の対立と憲兵司令部 重松關係文書II, 南方地域現地自治教本, 戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴, 二反長音蔵・アヘン關係資料, 東亞諸民族の死に関する衛生統計的調査, 東軍參謀部作成總動員關係調査資料, 軍律法廷審判例集, 南方方面海軍資料, 陸軍に於ける花柳病, 毒力入戦教育關係資料II, 十五年戦争末期國內憲兵分遣隊報告, 日本領上海における日妻人「マリア」の記録, 満洲国軍ノ現況, ベンゾイン不正輸入事件關係資料, 終戦後の法令制定・改正・廃止經過覽, 陸軍軍医学校防疫研究報告, 山東出兵時における「第三師團特種研究記事」, 五・五事件期憲兵司令部關係文書, 陸軍化學部 毒力入戦教育演習關係資料, 陸軍省「調査彙報」, 大同保育隊報告, 戦場心理の研究, 満洲事変日誌記録, 「合作社事件」關係資料, 情報, 東京時事資料月報, 「研究蒐録 地図」, 大阪府特高警察關係資料, 憲兵隊が記す日中開戦時の国内状況, 戦時下政治行政活動史料, 海軍軍法会議判例類集, 陸軍軍法会議判例類集, 總力戦研究所關係資料集.